

巻頭言

情報科学研究センター所長

小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第 19 巻になります。本研究は、第 11 巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入し、新たにスタートしましたが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝しております。

さて、今回は、研究ノート 3 編、報告 4 編の計 7 編、ご投稿いただきましたが、これは 3 年連続の最多投稿件数です。本研究は、第 17 巻まで印刷物にしてきましたが、前回から印刷物にしないで電子化し、城西大学の図書館のホームページからいつでもみられるようにしました。レフェリー制度を導入して以来、これまで英文の研究論文の投稿が 1 篇ありましたが、今回は残念ながら研究論文のご投稿はありませんでした。是非、これからも研究論文のご投稿をお願いいたします。

さて、情報科学研究センターでは、SCNL2005 において e-Learning の授業展開を推進すべく、ハード・ソフト面の初期的な環境整備を行いました。常駐スタッフの赤嶺多恵子氏の支援もありコースナビの利用も順調に進んできました。しかし、来年度からスタートする情報教育システム「SCNL2009」では、教材作成・教材提示を支援するシステムはコースナビから「ウェブクラス」に替わります。コースナビに慣れてきたところでの変更で申しわけありませんが、ウェブクラスについてもこれまで同様サポートいたしますので、ご利用いただきたいと思います。

今年度（2008 年 4 月～2008 年 12 月）のコースナビの教員利用状況をみると、41 名の先生が利用し、学部別では薬学部が最も多く、以下現代政策学部、理学部、経済学部、経営学部、短大の順になっています。一方、学生の利用状況をログイン比率でみると、現代政策学部と経済学部が同率で最も多く、以下経営学部、理学部、薬学部、短大の順になっています。これまで、教材資料配布として利用される場合が圧倒的に多かったが、今年度は特にレポート機能に関してレポートを提出させるだけでなく、それを評価し学生に評価を開示するといった、対面的な e-Learning が展開されるようになっていきます。来年度は、ウェブクラスに替わりますが、本格的な e-Learning として活用していただければと思っています。なお、コースナビの詳しい利用状況については、今年度の情報科学研究センター広報の「城西大学における e-Learning の利用について」をご覧ください。

『城西情報科学研究』は、前号から電子化しましたので、図書館のホームページからご利用いただくとともに、次巻のご投稿をお待ちしております。